

## 平成 2 5 年度外部評価議事録

議 事 概 要	
会議の名称	平成 2 5 年度行政評価（外部評価） ※ファミリーサポートセンター事業
開催日時	平成 2 5 年 9 月 2 7 日（金）午後 1 時 4 5 分から午後 3 時まで
開催場所	福祉の家 2 階 集会室
出席者氏名	委員（会長） 和泉 潤 委員 中島 美幸 委員 杉山 知子 委員 小川 辰男 委員 杉本 孝司 委員 太田 孝夫 委員 中村 佐仔子 委員 佐藤 長男 担当課 福祉部長 山下 幸信 福祉部次長 浅井 雅代 子育て支援課長 福岡 隆也 子育て支援課子ども家庭係長 安田 純子 事務局 行政経営部長 松井 豊明 行政経営部次長 三浦 肇 経営管理課長 高木 昭信 経営管理課課長補佐 飯島 淳 経営管理課主事 加藤 優作
傍聴者人数	1 0 人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	ファミリーサポートセンター事業について
問 合 先	長久手市行政経営部経営管理課 0 5 6 1 - 5 6 - 0 6 0 0
備 考	

担当課 会長   担当課	<p>&lt;平成 2 5 年度長久手市行政評価（外部評価）資料に沿って説明&gt;</p> <p>援助会員が少ないということを課題としているが、援助会員とはどうあるべきと考えているか。</p> <p>また、依頼会員はどの程度を見込んでいるか。</p> <p>依頼に対してはほぼ 1 0 0 % 対応できている。</p> <p>人数のバランスは取れており、必ずしも援助会員が多ければいいと</p>
--------------------------	--

委員	<p>は考えていない。ただ、本市の人口増、転入増を考えて、どの程度というのはないが援助会員の増加は課題として考えている。</p> <p>昨年度、依頼件数 2,334 件の依頼に対し、2,332 件応じている。依頼の内訳を教えて欲しい。</p>
担当課	<p>また、緊急時の対応と不慮の事故に対しては傷害保険で対応しているということだが市として他に何か対応を考えているか。</p> <p>利用者の実人数の内訳については数としては分からないが、1 人の人がたくさん依頼していたりというのはある。</p> <p>緊急時については、フォローアップ研修で熱が出た場合の対処方法などを行っている。</p>
委員	<p>事故については傷害保険で対応し他にはない。</p> <p>援助会員が少ないのは、責任が重い割には報酬が少ないからではないか。</p>
担当課	<p>今年度、子ども子育てに関するニーズ調査を行う。ファミリーサポートに関する調査欄もあるのでニーズを把握していく。</p>
委員	<p>平成 24 年度 2,334 件で平成 22、23 年度から減っているが何故か。</p> <p>またこの 6 月現在で依頼会員 476 人、援助会員 69 人、両方会員 149 人と平成 24 年度末に比べ 3 か月で増減がある。会員数の移動はしょっちゅうあるのか。</p>
担当課	<p>1 人の人が恒常的に利用することがあり、平成 22、23 年度は保育園のお迎えに毎日利用された人があり、件数が多かったと思う。</p> <p>年度末と 6 月時点の会員数の差については、年度末は会員の更新時期にあたり更新しない人もいるため減少する。その後 4 月からの新規講習で会員になる人がおり徐々に増加する。</p>
委員	<p>アドバイザーの報酬は時間単価か。</p> <p>活動報告はどの程度のものか。</p> <p>会員の性別を教えて欲しい。</p>
担当課	<p>報酬については、平日の日中は 30 分 350 円、土日祝等と平日の時間外は 30 分 400 円、土日祝等の時間外は 30 分 450 円の 3 段階で、依頼会員と援助会員で直接やり取りする。</p> <p>活動報告の用紙は A4 複写で、援助会員が時間の過ごし方などを箇条書きする。</p>

委員

トラブルはあるか。

担当課

報酬の支払いが遅いとか保育園へのお迎えの依頼が必要なくなったが連絡がいかず園に迎えに行ってしまったなどがある。

委員

課題としている援助会員の確保はどのような方法でやっているか。広報は使っているか。

担当課

アドバイザーは何人いて1人当たりの仕事はどの程度あるのか。単価はどれくらいか。

委員

チラシ・ポスターを作成し、市の施設への配置、乳児健診や保育園入所説明会での配布をしており、広報とホームページにも掲載している。

担当課

広報はパッと気づくように有効な掲載にしているか。

貴重な意見をいただいた。よりいい広報紙面にしていきたい。

アドバイザーは2人で、講習会の開催や依頼したい人からの電話やファックスの対応などの橋渡しが主な業務。報酬単価は1件あたりとかではなく時間いくらというかたち。

※（中島）委員への回答

会員の性別は、ほとんどが女性で、依頼会員には夫婦で登録したり、援助会員には67人のうち男性が2人いる。

委員

アドバイザーは民間の人が2人か。

担当課

市の非常勤職員2人。

委員

担当課の立ち位置を聞きたい。ちょっとしたクレームがあった場合どのような対応をするのか。アドバイザーの力量にかかっているのか。

業務はコンピューターでシステム管理しているのか、昔ながらのカード方式か。

担当課

波及効果はどのように考えているか。子供会や自治会と連携する気はあるか。交流会は予算はないのか、参加者の自腹か。

担当課の立ち位置については、報酬の支払いが遅い場合などは基本的には個人の契約になるので、事務局と打合せの上、アドバイザーがメッセンジャー的な役割をしている。

管理は紙ベースでしており、住宅地図を活用し依頼者から近い援助

委員	<p>者を紹介している。</p> <p>子供会や自治会への波及効果は特に意識していない。</p> <p>交流会は少しの消耗品しか予算はなく手作りでやっている。</p> <p>援助会員が少ないのは責任の問題がある。援助会員になるには資格や条件はあるのか。</p>
担当課	<p>資格というのではない。</p>
委員	<p>警報、注意報がでたときの保育園の送り迎えについてマニュアルはあるか。</p>
担当課	<p>援助活動中に警報、注意報がでたときは依頼会員に早く迎えにくるようには言っている。</p>
委員	<p>100%できていると言っているのに、課題が援助会員が少ないというのは何故か。</p>
担当課	<p>今は100%できているが、さらに充実させたいということ。</p>
委員	<p>P D C Aの観点が必要。人数や件数ではなく目標が達成されたかを指標にするべき。</p>
委員	<p>制度を利用してリフレッシュすることがいけないと思っているお母さんがいるのではないか。</p>
委員	<p>育児オンリーになっている人をどうサポートするか。広く当事者にそのことを気付いてもらうように実態調査するなどが必要。</p>
担当課	<p>100点満点はないが目標に沿った成果は必要だ。依頼会員からの報告はないのか。援助に満足したかどうかやって把握するのか。</p>
委員	<p>リフレッシュに利用している人は少ない。児童虐待予防の観点からも個別には声をかけている。</p> <p>依頼者の報告を全員から受けているわけではないが、交流会の際などに利用はどうだったか声かけをしている。</p>
会長	<p>何のためにこの制度しているのかを志をもって具体的な検討をしなければいけない。</p> <p>P D C Aが大事だ。数を成果指標にするのは簡単だが質の問題である。依頼者に援助の結果を聞いていないのは重要で、満足しているかを把握する必要がある。</p> <p>量ではなく質をどうやって評価するかによって課題が見えてくるの</p>

委員	<p>で、そういったところを議論して欲しい。</p> <p>育児は女性だけのものではない。男だからといって子育ては関係ないではなく、「いくじい」というように退職を機に男性も援助会員を増やすなかにでてくるかも知れない。</p>
会長（総括）	<p>どういうニーズがあるか、しっかり把握しなければいけない。それに対してどうシステムを考えるか。また、援助会員の質を考えてニーズ調査を行うこと。</p> <p>当事者同士での報酬のお金のやり取りは変えたらどうか。例えば市内で使えるクーポン券にするなどしたらファミリーサポートはもっと広がるかも知れない。</p>